

ビストロ革命、 進行中!

東京・関西・パリ

100軒



HOUSE "Omelet" "Roasted Vegetables"

新世代ビストロは
“リラックス系”

“酒派”ビストロで人気のレシピ36品

食料自給率1%UP大作戦

[第2特集] 「冬の鍋×泡ワイン」

さらば芝生……玄関先を野菜畑でデザインする。

『Edible Estates (食べられる不動産)』ガーデンラボ・プロジェクトが、米若手建築家／芸術家のフリッツ・ヘイグ氏によって進行中だ。欧米住宅のガーデニングの常識では“表玄関先に芝生や草花。家庭菜園を設けるなら裏庭”が一般的。ところがヘイグ氏はこの既成概念を覆し、野菜や果物の苗を使って家屋フロント部分のランドスケープ(造園)を試みた。2005年から始められたこのプロジェクトは、米国本土のど真ん中カンザス州を皮切りに、西海岸、東海岸、南部、さらにはロンドンで展開されている。今年その模様を写真で綴った本も出版された。



21世紀になりさらに深刻さを増す自然破壊や環境問題、マスプロダクションされる食料品の安全性についての懸念がこのプロジェクトの背景にある。表通りに向かって堂々と自給自足的“食”をデザインする、それを中心にコミュニティを築こうという姿勢が、アメリカ人の目にはどこか懐かしく、また新鮮に映っているようだ。

◎ Fritz Haeg Studio

www.fritzhaeg.com/

本:『Edible Estates - Attack on the Front Lawn』

www.fritzhaeg.com/edible-estates-book.html